

# ヒグマのゾーニング管理について

近年、市街地やその周辺でのヒグマの出没が増えています。

市民の安全を確保し、人とヒグマとのすみ分けを図るためには、地域に応じた迅速かつ効果的な対策を実施することが重要です。

本市では、地域を大きく3つのゾーン（市街地、市街地周辺、森林地帯）に区分し、それぞれのゾーンに適した対策を進める「ゾーニング管理」を進めていきます。

## 1. 各ゾーンの考え方と対策

市街地	場所	蘭東・蘭北地区の市街地や住宅街、蘭西地区全域
	考え方	人の生活圏であり人の安全を最優先する地域 ヒグマの侵入、定着を許容しない
	対策	ヒグマを寄せ付けない対策（食べ物やゴミの管理、草刈りなど）
市街地 周辺	場所	蘭東・蘭北地区の市街地周辺の農耕地、公園、森林など
	考え方	人と野生動物を隔てる緩衝帯の役割、出沒抑制対策が必要
	対策	ヒグマの侵入を防ぐ対策（ハンターの見回り、ヒグマ対策も兼ねたシカの駆除） ヒグマの行動の監視（自動撮影カメラ、ドローンの活用）
森林 地帯	場所	蘭東・蘭北地区の森林地帯（市街地周辺を除く）
	考え方	ヒグマの生息域
	対策	登山者等への注意喚起

## 2. ヒグマ出沒時の対応

ヒグマの出沒地域と有害性判断のレベルに応じて対策を決定します。

ゾーン	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	共通
市街地	追い払い・見回り	追い払い・見回り 捕獲	捕獲	捕獲	出沒状況の 情報収集、 現地調査、 住民周知
市街地 周辺	経過観察 追い払い・見回り	追い払い・見回り	追い払い・見回り 捕獲	捕獲	
森林 地帯	経過観察	入林者への注意喚起 追い払い、見回	入林者への注意喚起 入林禁止	入林禁止 捕獲	

※出沒状況等に応じて、対応が変更となる場合もあります。

### <有害性判断>

レベル	行動形態
1	人間を恐れて避ける
2	人間を見ても逃げない、頻繁に出沒する、
3	人間を見ても逃げない、頻繁に出沒する、実害を及ぼす （農作物・家畜等の食害、ごみ・食料を漁る）
4	人間を見ても逃げない、頻繁に出沒する、実害を及ぼす （人間への攻撃、つきまとい等）

### 3. ゾーニングマップ

